楊

〔新撰字鏡木〕榻楊同耻圖反、志地、

〔倭名類聚抄十一車具〕楊　唐韻云、楊、吐盍反、和名之知、床也、

〔箋注倭名類聚抄三車具〕初學記引通俗文云、牀三尺五曰楊、是所以坐之器、釋名、楊、登也、施大牀之前小楊之上、所以登牀也、所以登牀之器、故轉注爲所以登車之器、按說文無楊字、古蓋用蹋字、蹋、踐也、謂可踐而登也、

〔類聚名義抄三木〕榻シチ　楊シチ

〔下學集下器財〕楊シヂ人座、或曰日本俗爲車具也、

〔倭訓栞前編十一志〕ゑぢ　新撰字鏡、和名抄に楊をよめり、車の床くびきをもたする具なり、されど楊字は車にのみ限るべきにあらず、唐韻に床也と注せり、

ゑぢのはしがき　昔し男の女をおもかひけて、九十九夜までかよひて車の楊に數を書たりしが、百夜に滿る夜、さはる事ありとて、逢ずなりにし故事なり、俊成卿臨期變約戀の歌に、

おもひきやゑゞのはしがき書つめて百夜も同じまろねせんとは

〔延喜式十七内匠〕伊勢初齋院裝束

車楊一脚料槻二枚、各長五尺、廣四寸、厚二寸、檜桙一材、阿膠五兩、鐵一廷、炭二斗、熟銅二斤十兩、滅金四兩、鑑銀一兩二分、鐵半廷、伊與砥一顆、信濃布二丈、調布二丈、白鍮薄三枚、方八寸、阿膠三兩、信濃布五尺、漆一升五合、絹一尺五寸、綿七兩、細布一尺五寸、信濃布二尺、掃墨五合、燒土五合、單功卅人、木工八人、漆七人、銅十六人、白鍮九人、

〔飾抄下〕一車

檳榔毛車〇中略

楊大臣黃金物、大將散金物、納言以下漆物、執柄家納言散物、大臣之後黃物、

〔門室有職抄〕楊事